

中学校 実践例 主題名 **困難を乗り越える力**
 教材名 **「不屈の熱意」(希望と勇気, 克己と強い意志)**

道徳的価値について

- 人間はよりよく生きるために目標や希望をもつが、目標をもったゆえに困難や失敗に直面することがある。その直面した困難や失敗を乗り越えることが必要であると実感することや目標に向かって努力し続けるには、困難を受け止めて勇気を失わない前向きな姿勢を持ち続けることが大切である。

生徒について

- 中学生は自分が価値を認めたものに意欲的に取り組んだり、強い意志をもった理想の生き方に憧れをもったりする時期である。一方困難や失敗、挫折しそうな場面に直面すると安易に逃避したり、諦めてしまったりすることも多い。また、理想通りにいかない現実にも悩み苦しむ生徒も少なくない。

教材について

合唱コンクールの指揮者に立候補し奮闘する主人公だが、時間が経つにつれクラスの練習への意欲が見られなくなる。そんな折祖父から「獺貫瀧の切通」の話を書く。強い意志をもって困難を乗り越え目標を達成した助右衛門に自分を重ね、主人公は前向きな気持ちを取り戻す。

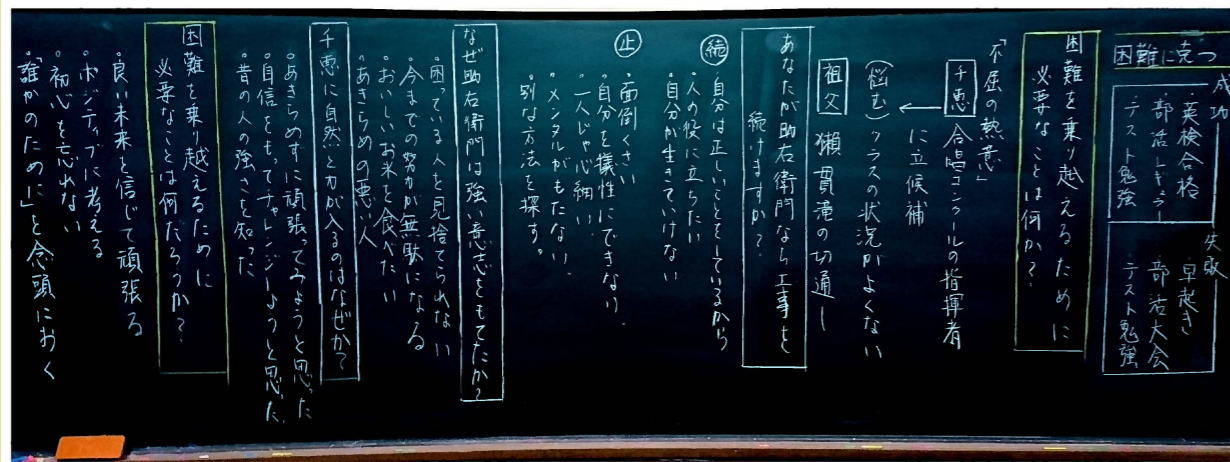
ねらい

強い意志をもつために何が必要なのかを、自分が目標を達成できなかったときの経験や目標を達成できたときの成功体験をもとに考えさせ、議論を通して多面的な考え方を養う。

指導にあたって

- 道徳的価値理解を自分自身との関わりの中で深めるために、主人公が困難に直面している場面で、自分自身が困難に直面したときの成功体験と失敗体験を想起させ、成功したときの要因と失敗したときの原因をそれぞれ議論しながら多面的、多角的に道徳的価値を深めていきたい。
- 困難に負けず強い意志をもって大きな成果を残した人間の偉業に触れ、人間には目標に向かってあきらめずに頑張ろうとする気高い姿もっており、各自の成功体験に触れながら自分自身にもそういう力があることに気付かせたい。

板書



実践記録

	主な学習活動と生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 自分が目標を達成できたこととできなかったことを出し合う。 ・ 試合に向けて自主練を行い続けた。 ・ 休校期間中外出しなかった。 ・ テスト勉強が計画的にできなかった。 ・ 休校期間中ゲームをし続けてしまった。 2 本時の学習のめあてをつかむ。 困難を乗り越えるために必要なことは何か。	○ 目標を達成できたことと取り組むときの心情、その逆についても事前にアンケートをとり、成功体験、失敗体験とそのときの心情を想起させる。 ○ 誰もが目標を立てて何かをしようと思っているが、いつでも誘惑や弱い心に打ち勝って成功するのは難しいということも理解させたい。
展開	3 教材「不屈の熱意」を読んで、困難を乗り越えるために必要なことは何かを考える。 (1) 教材を通して困難を乗り越えるために必要なことは何かを考える。 ア あなたが助右衛門なら工事を続けますか。 ・ 困っている人を見過ごせない。 ・ 自分を犠牲にしてまで他人を救えない。 ・ 一人だったら工事は続けられない イ 助右衛門はなぜ強い意志で困難な事業をやり遂げることができたのだろうか。 ・ 困っている人を救いたい。 ・ 自分のやってきた努力が無駄になる ・ おいしいお米を食べさせたい。 ウ 千恵に自然と体に力が入ったのはなぜか。 ・ 諦めずに頑張ってみようと感じたから。 ・ 自分の目標を自分の現状に甘んじないより高い目標にしたい。 (2) 「困難を乗り越えるため」に必要なことは何だろうか。 ・ 自分の目標に対して、失敗や困難を恐れずに最後まで諦めない。	○ 自分たちが経験した合唱コンクールの練習のときを思い出しながら、自分のこととして教材を捉えさせ、道徳的な価値を深めさせる。 ○ 「続ける」「続けない」「どちらともいえない」といったそれぞれの捉えの理由を比較しながら考えさせることを通して、多様な価値観を表出しながら学び合う活動を設定する。 ○ 分かっているてもできない人間の弱さを克服した助右衛門の強さの原因を考えさせ、強い意志をもつためにはどんなことが自分を支えるのかを考えさせる。 ○ 「困難を乗り越えて続けたことのよさ」「より高い目標をもつことのよさ」などの考えと、困難を乗り越えた自分の生活場面での経験を明らかにしながら話し合わせる。 ○ 自分が大切にしたい考えの理由を話し合わせる。学級全体でも価値を共有する。
終末	4 学習したことを振り返り、自分が新たに感じたことや自分の考えを深めたことについてまとめる。 5 教師の話を書く	○ 友達との交流を通して、学んだことを自分の学習前の考えと比較しながら考えさせる。

実践を振り返って

【成果】

- 導入で成功体験と失敗体験を出させることで発言しやすい雰囲気と教材の自我関与ができやすい雰囲気をつくることができた。
- 助右衛門が最後まで諦めずに工事を続けた場面に自我関与させることで人間理解を踏まえた価値理解と、多様な考え方の交流を図ることができた。

【課題】

- 人間理解(弱さ)を理解することだけでなく、心構えや意義に考えが向くように自分の生活場面と重ね合わせて考えさせることが必要であると感じた。
- 千恵か助右衛門どちらかに自我関与させるのかを決めて授業を展開した方が、より価値項目を深めることができると考えられる。